



遺伝子多型の組み合わせに基づく4等分グループ

図2: ポリジェニックスコアによる4グループ別の肺腺がん発症への危険度

最も危険度の低いQ1グループの危険度を1としたときに、最も危険度の高いQ4グループの危険度は、EGFR変異を持つ肺腺がんに対しては8.6倍高まり(95%信頼区間: 5.7-13.1, P値=8.0×10⁻²²)、EGFR変異を持たない肺腺がんに対しては3.5倍高まる(95%信頼区間: 2.4-5.0, P値=7.4×10⁻¹²)。EGFR変異の有無による違いは統計学的に有意であった(異質性のP値=3.7×10⁻³)。